

秋田県農林水産技術センター畜産試験場



秋田県農林水産技術センター畜産試験場 研究管理棟



家畜ふん尿処理施設全景



処理施設内部



地下浸透水採取装置設置風景



堆肥施肥圃場

口絵説明

秋田県農林水産技術センター畜産試験場

1. はじめに

秋田県は、東北地方の西北に位置し、日本海に面し、奥羽山脈や白神山地に囲まれ、秋田、仙北、平鹿などの平野を有する穀倉地帯です。農業産出額は、1,861億円で、うち水稲が約60%を占め、それに次ぐのが畜産で16%を占めています。畜産では、肉用牛や秋田比内地鶏の規模拡大が進む中、畜産環境に対する意識が高まっており、環境負荷低減や、耕畜連携による循環型農業を目指した研究を行っています。

2. 位置とアクセス

当場は、大仙市に有り秋田市から南方約50kmに位置し、標高37m、総面積218.6haの台地です。

J R 東日本奥羽本線「神宮寺駅」から北方約2k mの距離にあります。

3. 組織の概要

平成18年4月には、農林水産系の公設試験研究機関が統合再編され、農林水産技術センター畜産試験場として現在に至ります。平成20年4月より管理室、酪農・飼料部、肉牛・先端技術部、中小家畜部の1室、3部体制となりました。

4. 環境技術への取り組み

家畜排せつ物処理法の施行により、家畜糞尿の適正処理・利用が強く求められていることから、耕種農家と連携した循環型農業と環境負荷の軽減を目指した家畜糞尿の適正処理・利用技術の確立に取り組んでいます。

(1) 耕種農家が求める家畜堆肥生産技術の確立(2004～2006)

家畜ふん堆肥の利用を促進するため、原料や製造方法の異なる県内堆肥センター等で生産された堆肥181点について調査分析して、堆肥生産者が堆肥品質の特徴や問題点を把握し、利用者が利用方法を判断できるように、その成分や特徴を明らかにしました。

(2) 地域内有機資源を活用した持続的農業生産技術の確立(2007～2011)

水稲、野菜、果樹及び牧草で、地域内の有機資源を活用し、農地の生産力の維持・増進と環境負荷の低減を図る持続的農業生産技術を確立するため、堆肥の肥効特性、環境負荷、農産物の品質などについて検討しています。(県内公施試、秋田県立大学との連携試験)